

CONTENTS

第59回日本定位・機能神経外科学会の開催に向けて 杉山 憲嗣

一般社団法人 日本定位・機能神経外科学会 理事長就任のご挨拶 平 孝臣

Welcome address for the JSSFN newsletter Prof. Ludvic Zrinzo

ニューロモジュレーションサポートプロバイダーコースの紹介 旭 雄士

施設紹介「札幌医科大学病院」 江夏 伶

INS 2023 日本招致を目指してーパルセロナの次は日本へー 平林 秀裕

WSSFN 学会報告記・理事就任挨拶 森下 登史

2019 DBS Think Tank East 参加体験記 藤岡 伸助

学会予定

編集後記 内山 卓也



Japan Society for Stereotactic and Functional Neurosurgery  
Founded in 1963

日本定位・機能脳神経外科学会

< 事務局 >

日本大学医学部脳神経外科学教室  
〒173-8610 東京都板橋区大谷口上町30-1  
TEL: 03-3972-8111 (内線: 2481)  
FAX: 03-3554-0425  
med.teii@nihon-u.ac.jp

< ニューズレター編集部 >

jssfn-newsletter@googlegroups.com  
東京女子医科大学 平 孝臣  
聖マリアンナ医科大学 太組 一朗  
金沢脳神経外科病院 旭 雄士  
倉敷平成病院 上利 崇  
自治医科大学 中嶋 剛  
近畿大学 内山卓也  
日本大学 小林一太  
福井赤十字病院 戸田弘紀  
済生会松山病院 田中寿知  
大阪大学 谷 直樹  
岩手医科大学 西川泰正  
福岡大学 森下登史  
札幌麻生脳神経外科病院 笹森 徹

第59回日本定位・機能神経外科学会の開催に向けて

杉山 憲嗣 先生 KENJI SUGIYAMA

浜松医科大学 脳神経外科 病院教授



2020年1月10日、11日に第59回日本定位・機能神経外科学会を浜松市で開催させていただくことを大変光栄に存じております。オリンピックイヤー最初の月で、令和に年号が変わってから最初の学会となります。教室の関係者一同、学会準備にいそしんでおりますが、招待演者、プログラムもほぼ固まりつつあります。今回の学会では、同時開催の日本てんかん外科学会の山本貴道会長も浜松医大の同門であることを良いことに、日本定位・機能神経外科学会としては、少しフライング気味のスタートとなるのですが、てんかん外科と定位機能神経外科の合同シンポジウムをてんかん外科学会の日程内に設けていただきました。内容は、昨今開発がめざましい、てんかんに対するDBS手術です。この合同シンポジウムだけは、定位・機能神経外科学会の会費だけで参加できますので、是非、1月10日の午前中から、学会会場に足を運んでいただきたく存じます。

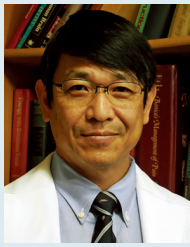
今回、10名の海外招待演者と国内から7名の招待演者が参加される予定でおります。1月10日に認知症に対するニューロモジュレーションの教育講演とシンポジウム、そして、精神科疾患に対するニューロモジュレーションの海外の先生による特別企画と国内の先生によるシンポジウムを設けました。Broaden trial の長期成績や、難治性OCDに対するFUS治療など、聞き逃さない発表ばかりです。1月11日には、field potentialとoscillationのシンポジウム、そして新規刺激条件を用いたDBSのシンポジウムを設けました。共に、臨床から基礎の先生まで参加していただきます。近日中にセンサー機能のついたオンデマンド型のDBS装置が出て参りますが、これに使用されているfield potentialとoscillationの持つ意味とその臨床応用について、共に勉強したいと思います。そして新規刺激条件を使用できるDBSシステムは、30 μ secなどのshort durationの刺激が使用できるようになってから4年、directional leadが使用できるようになってから2年が経過いたしました。先生方に蓄積された知見を基礎の先生方、海外の先生方とともに、これらの新規システムが我々にもたらした、またはもたらすであろう物は何かを議論して参りたく存じます。11日には平戸正政史先生にユニット記録の教育講演をお願いいたしました。平戸先生が蓄積され、先生のもとにある豊富で正確なユニット記録のお仕事は、機能的脳外科医にとっては、一般脳外科でいったらRhotonの微小解剖に匹敵する様な物で、日本のお宝というよりは世界のお宝ではないかと考えております。

今回のテーマ「未来への収束(convergence)」と「拡散(divergence)」の通り、先生方の知見、議論をこの学会で収束させていただき、その結果を先生方の臨床に、新規分野に、新たな疑問に拡散していただく事を願っております。そして静岡の温暖な冬をも楽しんでいただけるよう、多くの先生方のご参加を浜松医科大学脳神経外科の同門一同、心よりお待ち申しあげます。

第59回日本定位・機能神経外科学会会長 杉山憲嗣



一般社団法人 日本定位・機能神経外科学会 理事長就任のご挨拶



平 孝臣

TAKAOMI TAIRA

東京女子医科大学 脳神経外科

2019年10月に行われました理事会で加藤天美理事長の後任として新理事長にご推挙いただきました。本学会が社団法人化して初めて選挙によって選出された理事長ということになります。40年近く機能神経外科分野に没頭し、日本の学閥や歴史的流れの中では異端児のように振る舞ってきた私にとりまして格別の喜びとともに、その重積を痛感しています。昨今の医療・医学をとりまく厳しい状況の中で、いかにして機能神経外科の素晴らしさを若い医療者達に実感してもらい、より多くの患者さんの治療とおして社会貢献につなげていくことが私の使命だと感じています。

機能神経外科によって大きな恩恵を受けられる非常に多くの患者さんがいるにも関わらず、実際にはごく一部しか適切な治療を受けていないのは何故でしょうか。私達にとっては日常的である穿頭手術が、患者さんにとっては一生の重大な決断であることも忘れてはなりません。医療者への信頼が真に問われ、結果が誰にでも明白にわかる分野でもあります。

当然、研究や論文・学会発表は目的ではありません。患者さんの苦悩を自分たちの持つ脳神経外科という専門知識と技術によって、どうやって解きほぐすかということを日夜考え、努力することが自然に研究や論文につながり、それにともなって患者さんも集まってきます。

特にこれからの若い力に期待して、下記のメッセージを就任のご挨拶の締めくくりにしたいと思います。

「優等生を目指すな、仕事を道楽にしよう、今の世の価値観に翻弄されるな、力量のある上司は若者をつぶさない。のめり込め、一度しかない人生で我慢するな、劣等感も毒にも薬にもなる、劣等感を頑張りの糧にしよう。継続は力なり。名声や地位のために仕事をするな。切磋琢磨は大事だが、人と人の conflict、妬み、恨み、からは何も生まれない。」  
よろしく願い申し上げます。

Welcome address for the JSSFN newsletter



Ludvic Zrinzo MD, PhD, FRCS.

Professor of Neurosurgery  
Queen Square, London, UK

Dear colleagues and friends

Functional neurosurgeons dedicate their careers to improving the surgical management of patients with neurological and neuropsychiatric disorders. Being a member of this global and tightly-knit community brings us into contact with numerous bright and like-minded people with shared goals, often allowing us to forge deep and lasting friendships. One such international relationship was formed many years ago when Professor Takashi Asahi visited Queen Square, London who has kindly invited me to write this welcome address for the JSSFN newsletter.

Our rapidly expanding field has benefitted from spectacular advances in technique and technology. The 58th Annual Meeting of the Japan Society for Stereotactic and Functional Neurosurgery (JSSFN) in January 2019 was a wonderful opportunity to review the rich history of and recent progress in our speciality, as well as to debate important ethical issues. I am very grateful for the kind invitation of Professor Makoto Taniguchi, President of the Society, to attend this splendidly organised and enjoyable meeting. During my stay, I was also invited to participate in a local meeting on the surgical management of dystonia. This proved to be yet another showcase of the dedicated and innovative work of Japanese functional neurosurgeons.

While in Tokyo, I took the opportunity to enjoy its rich culture. Moreover, I had the pleasure of observing Professor Takaomi Taira, Dr Shiro Horisawa and the rest of his team performing a procedure for task specific dystonia. Witnessing juggler's batons flying through the air during a stereotactic radiofrequency thalamotomy for "juggler's dystonia" was a unique and memorable experience.

I thank the JSSFN for its generous hospitality and I very much look forward to meeting its members at future international meetings.

With very best wishes



### ニューロモデュレーションサポート プロバイダーコースの紹介



旭 雄士

TAKASHI ASAHI

金沢脳神経外科病院 脳神経外科

ニューロモデュレーションサポート(NMS)プロバイダーコースについてご紹介させていただきます。2019年5月11日、日本ニューロモデュレーション学会に併設して第1回NMSプロバイダーコースを開催いたしました。名称は、ICLSやACLSなどに準じて、ニューロモデュレーション治療のサポートをする方のためのコースという意味合いでNMSプロバイダーコースとしました。例年、医療機器メーカーに対する講習会として行われておりましたが、2019年より医療スタッフも受講できるようにしました。内容は、DBS、SCSに関する講義・筆記試験・各社デバイスのハンズオンとなっております。臨床工学技士3名、看護師2名、理学療法士1名、臨床心理士1名にご受講いただき、筆記試験を経て全員合格となりました。合格者には修了証ならびに認定バッジ(写真1)を交付いたしました。今回は初回で試験的に行ったため、少数名の参加となりました。

開催の目的は、ニューロモデュレーション治療分野において、医師以外の医療スタッフの介入を促進させることとなります。海外ではDBSナースなどのスペシャリストが活躍しておりますが、日本ではそのような制度もなく、医師以外の医療スタッフが学習する場もありませんでした。本邦において、ニューロモデュレーション分野におけるチーム医療を促進し、医療スタッフにやりがいをもって活躍していただきたいというのが趣旨となります。

医療スタッフが学習する上で、今まで医師以外の医療スタッフ向けのニューロモデュレーション治療に関するテキストはありませんでした。このため、現在、日本ニューロモ

デュレーション学会編集のテキストを作成中で、次回の学会前の発行を目指して準備を進めております。今後、多くの方にご参加いただき、各分野



写真1 バッジ

でのスペシャリストを育成し、日本のニューロモデュレーション分野でのチーム医療を推進していければと思っております。次回の開催は、2020年4月24日(土)となっており、バクロフェン髄注療法についての内容も含める予定としております。各施設でニューロモデュレーション治療に関わる医療スタッフの方々にお声かけをしていただければ幸いです。多くの方々のご参加をお待ちしております。

第12回 日本ニューロモデュレーション学会 指定講習会 ニューロモデュレーション サポート プロバイダー(NMSP) コース			
日時：2019年5月11日(土) 10:00~15:45			
会場：都市センターホテル5階スバル			
午前の部	10:00-11:00	脊髄刺激療法1 関連する解剖と生理	日本大学医学部脳神経外科 小林一太 先生
	11:00-12:00	脊髄刺激療法2 実際の臨床	近畿大学医学部脳神経外科 内山卓也 先生
12:00-13:00 昼食 (SF オリオン)			
午後の部	13:00-14:00	脳深部刺激療法1 関連する解剖と生理	金沢脳神経外科病院 旭 雄士 先生
	14:00-15:00	脳深部刺激療法2 実際の臨床	日本大学医学部脳神経外科 深谷 親 先生
15:15-15:45 指定講習会修了テスト (希望者のみ)			

※ 希望者のみテスト終了後 30分程度の刺激調整ハンズオンを行います。

第1回プログラム



プロバイダー  
コース風景



ハンズオン風景





## 施設紹介「札幌医科大学病院」



江夏 怜

REI ENATU

札幌医科大学 脳神経外科

このたびは施設紹介の貴重な機会をいただき、誠にありがとうございます。当施設は2014年夏号で、一度紹介の機会をいただいていたので、今回は2度目の紹介となります。

「札幌医科大学脳機能センター」は、神経内科学講座、神経科学講座、リハビリテーション医学講座、小児科学講座、脳神経外科学講座の複数講座合同で開設され、パーキンソン病やてんかんなどの機能疾患や脳機能部位の脳腫瘍に対する包括的治療やリハビリテーション医療を提供しています。当施設での定位機能外科は2012年6月にパーキンソン病に対して施行した視床下核の脳深部刺激療法から始まりました。以降、定期的にパーキンソン病の市民公開講座などを行いつつ順調に症例を増やし、2019年10月までに計31症例に定位機能外科を施行しており、2019年には日本定位・機能神経外科学会の認定施設に承認いただいております。

私たちは定位機能外科を施行する際に、覚醒下手術で行っていることとハイブリッド手術室を使用していることが手技上の大きな特徴かと思えます。麻酔下にセッティングと穿頭を終えて、硬膜の切開前に覚醒として、微小電極記録と試験刺激、電極留置を行い、再度麻酔導入してIPGの埋め込みを行います。覚醒下手術に習熟した麻酔科の先生のご協力のもとに、より患者さんの負担の少ない手術を実現できているのではないかと思います。また、放射線科にもご協力いただき定位機能外科をハイブリッド手術室で行っています。術中の透視・CTが容易にできるうえに、大画面8Kモニターでスタッフ全員が同じ情報を共有することができ、より安全で確実な手術が可能となっています。さらには、これら定位機能外科手術の手技を応用することで深部電極を定位的に脳内に留置するステレオ脳波によるてんかんの焦点診断なども行っています。定位機能外科の対象はパーキンソン病や振戦、ジストニアなどに限られているものの、その手技はひろく他疾患の治療にも応用でき、脳科学に寄与するところも大きいと思っています。定位機能外科を始

めてまだ歴史の浅い当施設ではありますが、この分野の発展のために尽力していきたいと考えております。今後ともご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



複数科合同でのカンファレンス



ハイブリッド手術室での術中CT撮影



### INS 2023 日本招致を目指して —バルセロナの次は日本へ—



**平林 秀裕** HIDEHIRO HIRABAYASHI  
奈良医療センター 脳神経外科

国際ニューロモジュレーション学会(INS)は、2年に1回開催され、最新の治療方法やデバイスに関する情報が披露される。わが国においてもDBSは、薬物療法抵抗性のパーキンソン病、本態性振戦やジストニアなどの治療法として確立され、難治性の疼痛に対しては、SCSが成果をあげている。また電気刺激のみならず、バクロフェンの髄腔内持続注入による痙縮治療も神経活動を修飾するという点でニューロモジュレーション療法のひとつとしておこなわれている。

しかしながら、これらの治療が国内で十分に普及しているとはいえない。例えば、国内には、パーキンソン病患者は約150万人、本態性振戦200~300万人程度はいるとされているが、年間のDBS、凝固など定位脳手術の件数は、精々1000件程度である。またDBSは、世界では強迫神経症・ツレット症候群・神経性食思不振症など精神科領域にも導入され良好な成績を挙げているが、本邦では、精神学会との軋轢や倫理問題がネックになって全く行われていない。痛みの領域では、頭痛に対する後頭神経刺激術や末梢神経刺激術など低侵襲で有効な治療が、本邦では認められていないなど、せっかくの有効な治療を国内の患者さんは享受できないでいる。

これらは、患者さん自身がデバイスを体内に植え込む事に対する抵抗感、術後のデバイス管理の煩雑さや、まだまだ多くの医師を含めた医療関係者にその有用性や素晴らしさが理解されていない事などが大きな理由になっていると考えられる。

そこで、ニューロモジュレーション療法の世界の現状や将来性について、広く日本の先生方に知って頂き、多くの患者さんにその恩恵を享受して頂くために、INSの日本誘致を実現したいと考えている。

令和元年12月吉日  
INS2023誘致委員長  
平林 秀裕



INS Japan chapter 報告(筆者)



会場風景



深谷先生(右)、内山先生(中央)筆者(左)と歓談中





## WSSFN学会報告記・理事就任挨拶



森下 登史

Takashi Morishita

福岡大学 医学部 脳神経外科

2019年6月24日から27日にかけてニューヨークで開催された18th Biennial Meeting of the World Society for Stereotactic and Functional Neurosurgery (WSSFN)に参加してきましたので報告させていただきます。本学会には多くの日本人の先生方が参加され、大変盛況な会でした。

この学会が催されることはもともと知っていたものの参加する予定は無く、演題も登録していなかったのですが、World Functional Neurosurgery というセッションへのパネリストとしての参加依頼がメールで4月2日に突然届きました。学会参加について上司の井上亨教授に相談したところ、快く参加を許可してくださいました。とは言え、諸事情により日本時間の6月26日に発ち、同日夕方にニューヨークに到着、そして翌日27日に発表して28日にはニューヨークを去るという強行スケジュールを組まざるを得ませんでした。今回、パネリストとして1セッションに参加して終了するつもりでしたが、日本出発当日に届いた戸田弘紀先生(福井赤十字病院)からのメールで Board Member 候補者になっていることがわかりました。続けて Konstantin Slavin 先生から投票に関するメールが届き、22人の候補者に対して11人の枠しかない我知道了。そういったこともあり、投票直前のパネルディスカッションで恥をかかわけにはいかないという強いプレッシャーを感じながらの移動となりました。

ニューヨークの学会場であるヒルトンホテルに到着したのは夕方5時半頃で、そこから恩師である Kelly Foote 先生と合流してレストランで食事を一緒にいただきました。アメリカでは初めてのワインペアリング体験でしたが、コースの一皿ごとにワインを1本出され、一人あたり2本近く最終的に飲んだかと思えます。二日酔いにならぬよう大量に水をのみ、翌朝6時には起きてホテルの自室でぶつぶつと独り言のようにプレゼンテーションの練習を開始し、午前11時半からの予定のセッションを迎えました。発表形式は、自分を含め7人のパネリスト達はオーディエンスから見てスクリーンの左側にあるソファの上にすし詰めで座らされているという状態でした。

World Functional Neurosurgery のセッションでは、世界各地での機能的神経外科の現状について、それぞれのパネリストが3-5分間のプレゼンをしてから皆でディスカッションをするという流れの予定でした。しかし結局のところ、一人目の Ron Altermen 先生はスライドも用意せずに1分ほど適当に喋って終了し、逆に何人かのパネリスト達は10分近くプレゼンするという無秩序な状態でした。そんな中、私はアジアの定位機能手術の現状について、過去5年間の日本と中国のDBS症例数の推移をもとに発表をしました。中国では症例数が年々増加し、年間500本以上のDBS電極を埋め込む施設が複数あるのに対し、日本では過去3年間DBS症例数が減少し続けています。これは focused ultrasound (FUS) 療法の出現に伴い radiofrequency lesioning 症例数が増えたせいだと考察しました。また、日本国内には十分なDBS症例を確保しにくい状況があると話したところ、学会長の Michael Schulder 先生や Foote 先生が非常に興味を持たれ、アメリカ国内における DBSセンター乱立に強い懸念を示されていました。最終的には、司会の Mojgan Hodaie 先生がセッションを上手くまとめ、セッションは無事終わりました。

休憩を挟み、13時半から General Assembly のセッションに入る際、会場の入り口で投票用紙が配られました。候補者達の名前が読み上げられた後、投票がその場で行われましたが、結果が出るまでは非常に緊張しました。学会に参加されていた他の先生方からは「大丈夫だよ」とお声かけいただいておりましたが、いざとなると不安で、一秒でも早く結果を知りたい気持ちでした。当選結果発表後、浜松医大の杉山先生が歩み寄り、「おめでとうございます！」とお祝いの言葉とともに握手をして下さったのは嬉しい思い出です。今回当選できたのは東京女子医大の平先生の推薦や戸田先生による根回し、そして投票して下さった皆様の



シンポジウム発表の様子



おかげと強く感じております。

自分の理事就任が決まった後は気が抜けた状態でいくつかの発表を聞き、閉会式まで参加しました。最後には東京女子医大の堀澤先生が貫禄のある Bakay Award 受賞スピーチをされ、日本人研究者のプレゼンスを学会参加者達に示しました。自分に近い年代で堀澤先生のような優秀な人材がいることは大変良い刺激になります。このような学会に来ることができて本当に良かったと思いました。

例えば、2018年に戸田先生から WSSFN newsletter Spring号の Featured Neurosurgeon のコーナーに出てみないか、と言われたときからレールが敷かれていたような気がします。今回の学会参加は本来予定していないものでしたが、パネリストへの招待に始まり、いざ参加当日になれば思ってもいない要職への推薦もあり、なんだかできすぎているように思います。これにとどまらず、2020年5月には韓国で行われる AASSFN に招待演者として、脳神経外科学会コンgresでは plenary session の演者として、さらに翌月には日独合同脳神経外科会議に座長として参加を予定しています。様々な先生方からご推薦をいただき、国内外で発表の場が増えて参りましたが、これからも驕ることなく人と人とのつながりを大切にしながら精進したいと考えております。

今後、WSSFNならびにJSSFNの学会を盛り上げていけるよう精一杯努力する所存ですので、皆様方の引き続きのご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

### 2019 DBS Think Tank East 参加体験記



藤岡 伸助

SHINSUKE FUJIOKA

福岡大学 医学部 脳神経内科

2019年6月3日に京都ホテルオークラにて開催された2019 DBS Think Tank Eastに出席しました。会翌日より国立京都国際会館で開催された第5回World Parkinson Congressに合わせて開催された研究会であり、世界各国より脳深部刺激術治療を専門とした医療者が集まる会でした。Okun先生が指揮をとるフロリダ大学の方が中心となり開かれた会であり、過去に6回アメリカで行われています。今回は、主にアジア・オセアニア圏内からの参加者を中心に初めて開催されました。

普段、私は神経内科医として、主に運動障害を呈する神経変性疾患の診療に携わっており、当院脳神経外科医である森下先生とともに、パーキンソン病はもちろんのこと、ジストニア、本態性振戦、トゥーレット症候群に対する機能外科的介入や痛みに対する脊髄刺激療法にも関わらせていただいております。今まで神経内科全般もしくは運動障害全般を対象とした国内、国外の学会への参加はしてまいりましたが、neuromodulationに焦点を当てた国際研究会への参加は初めてであり、しかも発表の機会を与えていただき、極度の緊張と喜びで胸が張り裂けそうになりながら、京都に向かいました。

いち早く会場入りしたところ、久々の再開となるOkun先生との話が盛り上がり、当初私の感じていた緊張感は程なく和らいでいきました。日本からは、私に加え、当院の森下登史先生、順天堂大学の大山彦光先生が招待講演演者として参加され、横浜市立大学附属市民総合医療センターの木村活生先生をはじめ数名の先生方も聴講者として参加されておられました。また私の上司である坪井義夫教授と当院脳神経外科の井上亨教授も応援に駆けつけてくれました。

プログラムは朝から晩までホテルに缶詰めでNeuromodulationについて語る構成になっており、午前中の前半部門は、運動障害疾患に対する脳深部刺激療法および超音波治療、後半部門はOCDやトゥーレット症候群などの精神疾患に対する脳深部刺激療法についての演題が続きました。午後の前半部門は脳深部刺激療法に関連した最新技術に



平先生(中央)と戸田先生(右)との記念撮影





日本定位・機能神経外科学会ニューズレター

焦点を当てた講演が3演題、後半部門はアジア地域からの脳深部刺激療法の報告が続きました。17の講演の中で印象に残ったのは、精神疾患に対するneuromodulationの話題でした。特にケンブリッジ大学から来られた神経精神医学者であるVoon先生の講演は聴きごたえがあり、OCDとaddictionの臨床像や脳深部刺激療法の実態についての系統だった内容でした。ちなみに私の演題は、「DBS in TS in Japan」という題名で、本邦におけるトゥレット症候群に対する脳深部刺激療法の現状と当院における成績を報告いたしました。Okun先生らも非常に興味をもっていただき、他の参加者の方々からも貴重なご意見やご質問をいただきました。

会終了後は会場横の一室で開かれた立食ディナーを楽しみ、その後に、RamirezさんとZhangさんを連れて鴨川沿いのお店で川床料理を堪能しました。天気も良く、夜空のもとで京都料理に舌鼓を打ちました。その後もRamirezさんとZhangさんを引き連れ、お好み焼き屋とラーメン屋をはしごいたしました。Zhangさんは最後まで完食できませんでしたが、お二人には日本の古都の夜を存分に楽しんでいただきました。

2019 DBS Think Tank Eastへの参加は私にとって大いに刺激となる良い機会になりました。今後もMovement Disorders Societyなどの海外開催の運動疾患関連学会に合わせて開催される予定であり、日程が許す限り、ぜひ今後も参加したいと考えております。あと宣伝になりますが、私がScientific Program Executive Committee memberとして会の開催準備に携わらせていただいている第25回World Congress on Parkinson's Disease and Related Disordersが、2020年6月にチェコ共和国の首都であるプラハで開催されます。また翌7月には、初の福岡開催になります日本パーキンソン病・運動障害疾患学会が、ホテル日航福岡で開催さ

れます。どちらの会でもneuromodulationを含め、話題盛りだくさんになっております。ぜひ奮ってご参加ください。

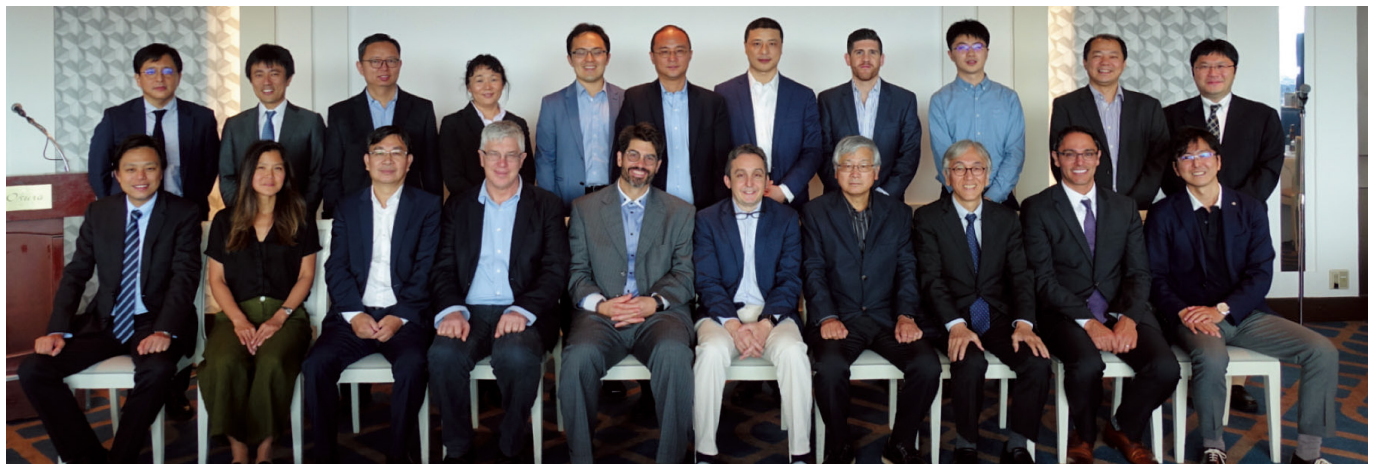
最後になりますが、この度は国際学会参加記のご依頼をいただきまして大変光栄に存じます。



Okun先生(中央)と森下先生(左)と私(右奥)



活発に議論する木村先生(左)と隣に座る上利先生(右)



集合写真





## 国内学会開催予定

- 2020/1/9-10 第43回  
日本てんかん外科学会 浜松  
<http://essj2020.umin.ne.jp/>
- 2020/1/10-11 第59回  
日本定位・機能神経外科学会 浜松  
<http://stereo2020.umin.ne.jp/>
- 2020/4/4 第49回  
関東機能的脳外科カンファレンス 東京  
<http://kanki.umin.jp/conference.html>
- 2020/4/25 第34回  
日本ニューロモデュレーション学会 東京  
第2回ニューロモデュレーションサポート  
プロバイダーコース  
<http://www.japan-neuromodulation.org/index.html>
- 2020/8/29-30 第28回九州・山口機能神経外科セミナー 福岡  
<http://www.k-yfns.jp/>
- 2020/9/5 第50回関東機能的脳外科カンファレンス 東京  
<http://kanki.umin.jp/conference.html>
- 2020/10/15-17 第80回日本脳神経外科学会総会 岡山  
<http://jns2020.jp/>
- 2020/10/28-30 第38回日本神経治療学会総会 東京

## 国際学会開催予定

- 2020/5/7-9 The 12th Scientific Meeting for the Asian  
Australasian Society of Stereotactic and Func-  
tional Neurosurgery Gyeongju, Korea  
<http://www.aassfn2020.org/>
- 2020/9/13-17 International Congress of Parkinson's  
disease and Movement Disorders  
Philadelphia, USA  
[https://www.mdscongress.org/  
Congress-2020.htm](https://www.mdscongress.org/Congress-2020.htm)
- 2021/5/25-30 International Neuromodulation Society  
15th World Congress Barcelona, Spain  
<https://ins-congress.com/>



## 編集後記

まずは、ニューズレター第18号の発刊にあたり学会会員および御寄稿いただきました先生方に深く御礼申し上げます。

2011年夏に初刊し現在まで、年2回8年間に渡り、定位・機能神経外科分野の黎明期の内容からその年のトピックスを中心に、当学会員のみならず国内外で当領域でご活躍の先生方からの御寄稿・イベントレポートなどを中心にお届けして参りました。

本号では、巻頭に第59回日本定位・機能神経外科学会学術集会会長である浜松医科大学の杉山憲嗣先生に開催に向けてのご挨拶をいただきました。「未来への収束(convergence)」と「拡散(divergence)」をテーマにされ、国内外の多くの先生方が招待演者として参加予定で、大変興味深い内容となっております非常に楽しみな学会が開催されます。私自身もわくわくしております、より多くの皆様にご参加頂ける様お願い申し上げます。

東京女子医科大学の平 孝臣先生から当学会理事長就任のご挨拶をいただきました。先生の患者様一人一人への丁寧な治療実績の積み重ねが、豊富な臨床経験となっており、頂いた大切な言葉を心に銘じていきたいと思っております。今後も当学会の牽引役の長として、益々ご指導いただけるものと思っております。

Prof. Zrinzo先生からは、前回の大会にご参加頂いた感想と我々学会員への感謝の言葉を頂きました。今後もできるだけ海外招待演者のご寄稿掲載を継続できるよう努力して参ります。

金沢脳神経外科病院 旭雄士先生からは、ニューロモデュレーションサポート(NMS)プロバイダーコースについてご紹介頂きました、この分野は医師だけでなく、コメディカル、メーカーが「One Team」になって、推し進めていくべきものであり、その先駆けとなる講習会であります。皆様の病院のコメディカルの方々の参加をお願いいたします。

江夏 怜先生からは札幌医科大学における、現在の定位・機能神経外科の取り組みをご紹介いただきました。最新のハイブリッド手術室での定位脳手術益々発展されることを期待いたします。

奈良医療センターの平林秀裕先生からは、INS2023の日本招致に向けての意気込みを熱く語って頂きました、皆で招致運動を支えて行きましょう。宜しく願いいたします。

福岡大学 森下登史先生からはWSSFN学会報告と理事就任の挨拶をいただきました。若くてActivityの高い先生が、国際学会の理事に就任されるまでの内容と選挙結果が出るまでの刻々とした時間経過を書いていただき、これに続くであろう若手の先生の刺激になったと思っております。

2019 DBS Think Tank East /WPC学会のご報告を福岡大学医学部 脳神経内科の藤岡伸助先生からご寄稿いただきました。ニューロモデュレーション分野の多様性について脳神経内科の先生にご報告頂きました。今後も関係を深めていけるよう会員の皆様宜しく願いいたします。

本号も盛沢山の内容で発刊することができました。皆様方に深く御礼申し上げます。今後ともニューズレターの内容充実を心がけて参りますので、併せてご寄稿を宜しくお願い申し上げます。(内山卓也)